



NO.1457

4月7日号

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三二一四四五八  
F四三二一四四五七

### 予算等審査特別委員会から

# 身の丈を超える借金の影響が今も!

## 災害への対策と準備を



3月12日から始まった予算等審査特別委員会にて、松浦議員は財政、災害などについて質問しました。

**松浦議員**：予算書に地方債償還元金とあるが、過去の大きな事業などの返済額も含まれているのですか。  
**財政課長**：地方債償還元金については、実際に借入れたものの元金を分割している。借り入れとして長いものは約30年前に借入れたものが入っています。  
**松浦議員**：30年前ということですが、安藤市長の時代になります。当時は、大型の公共事業が行われていて、身の丈を超える事業であるが、今も影響があることが分かりました。

## 側や日本海側の住民より認識が低いと指摘している。

**松浦議員**：今年は、元旦から能登地方で大きな地震があった。能登地方の地震では、道路が寸断され、自治体の職員が救援に行けない状況だと聞く。そのことから、網走においても最悪の事態を想定する必要があると思うが、避難所のあり方についてどのように考えているのか。  
**総務防災課参事**：現在、学校やコミセンなどに防災備品や発電機などを備蓄している。商店においては、停電時に照明用の電気の確保や非常用電源も整備している。令和6年度の事業は、非常用電源を郊外地区の避難所にも整備することを予定している。  
**松浦議員**：段ボールベツトが311個あるとのことだが、災害の状況によっては不足するかもしれない。代表質問でも述べたが、昨年の秋に網走で行われた講演会で、講師の方がオホーツク地域の住民は、地震や津波に対する認識が太平洋



## 除雪アンケート「網走広報」で4日に全戸配布

**日本共産党議員団**が2月に行った除雪アンケートは郵送などで701通届きました。深刻な現状があること、課題について、予算議会での質問等を掲載しました。  
4月4日付けの網走広報に折り込みました。皆さんのご意見をお寄せください。

## 松浦奮戦も!



新しい年度が始まりました。新入社員の入社式をはじめ、子ども喜びと同時に不安な思いも感じながら入学式を迎えることでしょうか。  
私は、端野町立北登小中学校で、端野町の北側の端で山を越えたら佐呂間町仁倉に接する山奥の学校でした。子どもたちの99.9%は農業で、どの家も貧しかったのです。貧しい中でも学ぶことの喜びもありましたが、離農に追い込まれるという厳しい社会の現実と挫折も味わいました。そんななか、日本共産党に出会い「社会を変える」希望を見つけ今日に至ります。まもなく71歳になりますが、今後ともご指導をお願いします。



## 村を駆ける



能登半島地震は私たちがはいつ何どきでも地震が起り得ると言うことを忘れてはいけないと教えてくれました。地震発生と津波への対応を日頃から考えておくことです。2月には房総沖の地震が頻発、先日岩手県で震度5弱、今朝は台湾でM6の地震と津波が発生するなど続いています。  
海沿いの歩道にフキノトウを見つけ、「ようやく春がきたなあ」とホッとしました。

網走市は地域防災組織が74%となっており、網走市には住民には、どう動くかまでは見えていません。網走沖には逆断層があり、津波は当然想定できます。一昨年、海岸町と向陽ヶ丘町内会で津波想定した訓練がありました。さらに訓練を増やして、幸福を届ける海が憎しみの海とならない様にしなければなりません。



## 流氷

二月のある日、午後三時を過ぎたころ。網走湖莊さんから呼人市街へ、湖沿いを歩いた。寒さで耳が痛い。透き通る青い空に、オレンジに変わっていく太陽が、遠く湖岸の林に近づいていた。  
▼木々の根本に、けもの足跡が続いている。シカか?キツネか?ウサギか?鳥もある。たくましく生きるものたちの姿を想像した。  
▼ふと湖上に目をやると、ヒトの足跡で「Happiness」(ハピネス)と書かれていた。どんな人が残したのだろうか。その人が幸せだといいなと思つた。または、誰かの幸せを祈って書いたのかもしれない。すぐ頭に浮かんだのは、ウクライナとガザだ。▼今、この時も、砲弾におびえる人がたくさんいる。大切な家も街も、こんなに砕かれて、色あざやかな暮らしを失った人たちが、網走の人口の何倍もいる。▼日本は武器を共同開発することになったが、その武器は、いったいなにをするために、開発するのだろうか。▼一日も早く戦争が終わってほしい。  
かーこ